2016-10-20 ナショナリズム論　第三回　テキスト：２

資料：感想・疑問等とコメント

1. 本文内容の疑問は、①黒人＝プロレタリアート、黄色人＝ブルジョアジー　⇒これらは何を表しているのですか。[1]
2. 白人優位の考え方があり、ユダヤ人も外見は普通に白人である。迫害されたのは宗教的なものかもしれないが、白人優位の中なのになぜ？[2]
3. “Hong Kong is not China”香港は中国ではない”“香港は独立する/している、という意識が働いている事実事態も、「香港ナショナリズム」としてみなすことができるのは驚きであった。そう考えると、世界中にもっとたくさんの「ナショナリズム意識」はありそう。日本の今の政権がナショナリ

---

[1] プロレタリアートは、無産階級、ブルジョアジーは、有産階級という意味です。黒人を無産者の階級と位置づけ、黄色人を有産者の階級と位置づけ、それら二つの階級の上に白人＝貴族がある、という上下の階層性を主張しています。あくまでも主張であり、事実に合致しないのですが、階層の差別意識の中で、考え出されたと言えます。

19 世紀から 20 世紀前半にかけては、むしろ、ヨーロッパで支配的なマルクス主義の考え方では、ブルジョアジー＝資本家階級、プロレタリアート＝労働者階級と定義されていました。今では、このような概念がほとんど使われませんが、それはなぜでしょう？一方における所有と経営の分離、株式会社形態の全般的普及、他方における「労働者」の減少（その意味は工場労働者・ブルーカラーの意味合いですが）と職員層（ホワイトカラー、事務。サービス関係の勤労者）が社会の大きな部分を占めたことがあるでしょう。マルクスの定義は、生産手段を持っていない階級＝その意味での「無産」階級をプロレタリアートと定義しますので、工場労働者であろうが職員であろうが、労働＝勤労によって生活の糧を得ている人々はすべて「労働者階級」に属することになります。

これらに対して、小ブルジョアジーという階級があります。

小商人は、小さな店を持ち、商品仕入れの資金（資本）を持ち、その意味での小さな資本家ですが、他方では、他人を雇っていないこと、家族だけで商店を営むことなどから、労働者としての側面もあります。小ブルジョア、と定義されます。

小さな職場を営む手工業者も、仕事場を持ち、道具・機械類を持ち、それらで生計を立てることが可能という意味で、小資本家ですが、他人を雇うことなく家族だけで仕事をする、といった多くの場合、労働者の側面・性格も持っています。これまた小ブルジョアのうちに入れられます。

さらに、多くの農民も、自分の土地を持ち、農具をもって、小資本家的な側面を持ち、他面では、家族と一緒に働くわけで、自己の労働による生計維持という面からは、労働者としての側面・性格も持ちます。

[2] なぜある集団を迫害するのか？　迫害の理由は何か？　これを具体的に考えてみる必要があります。

ユダヤ人大量殺害の時に、理由とされたのは、戦争がもたらす被害・困難を誰のせいにするか、それは「ユダヤ人だ」と説明するのが、反ユダヤ主義です。

その場合、ユダヤ人は、ユダヤ教の信者だからという宗教的理由ではなく、そもそも人種としてのユダヤ人が犯罪者だ、すべての悪の根源だ、と決めつけるのであって、これが人種主義的反ユダヤ主義です。ヒトラーのもっとも典型的な言葉を一つ紹介すると、世界戦争を引き起こしたのは、また今後引き起こすのは、「ユダヤ人だ」という演説があります。もっとも有名なのは、1939 年 1 月の国会演説の時の言葉です。

あなたは、第一次世界大戦が、どうして起きたのか、また、第一次大戦でドイツが敗北したのはなぜなのかについて、考えてことがありますか？

ヒトラーは、戦争を引きおこすのは、ユダヤ金融資本だといい、ドイツが負けたのは、ユダヤ人が裏切ったからだ、ということになります。なんでも、責任をユダヤ人に擦り付けるやり方、これが反ユダヤ主義です。

ズムであるとは驚き[3]。

4. 肌の色や宗教的マジョリティ・マイノリティが起点となって、ユダヤ撲滅的考えや、ホロコースト、人種差別が始まった。[4]
5. 私は１年アメリカの高校（普通の効率）に通っていた経験があるが、私のような黄色人はごく少数。私がマイノリティの側だ。また、ほぼ周囲はキリスト教（プロテスタント系や）カトリック系で、私のような無宗者はほぼいなかった。ここでもマイノリティ。しかし、だれにも、「Jap！」とか、「Yellow」とか言われたことはなかったし、「どうして神を信じないの？」と不思議がられることもあったけど、人種差別の経験なんて一度もなかった。**時代が違う**のか、私の**運が良かった**のかだけなのか。[5]　・・・集団やグループでの”普通“。今の世界でも見直す必要のある国はたくさんあるのでは。
6. テキスト P.24 ナチ党支持者の中で、「学生や市民層からの指示が多かったというところで、当時の学生の人口比・同年齢比で、少ないエリートであることなど、「当時における立ち位置」や背景もしっかり見ておく必要がある[6]ことを痛感した。
7. なぜ、イエスはユダヤ教を否定したのか？[7]
8. P.27 の図6の意図がわからない。P.27　図6を拡大して見てみよう。
9. ナチ党を支持した人が、旧中間層が多かったということで、どんどん、なぜ？と疑問が増えていったことが、理解が深まっていることを実感して、とても面白かった。[8]

---

[3] 安倍政権が、日本の歴史の中で、特に戦後の中で、どのような性質の政権であるか、注意深く見ていく必要があります。安倍首相、その政権が、「**日本会議**」という集団が支える政権だということは、今では非常に有名です。一度、「日本会議」に関する文献（キーワード検索）を探して、調べてみたらどうでしょうか？どのような考え方をしている組織か？

[4] 「起点」、「始まり」から、ホロコーストといった巨大な悲劇までの間に、どのような中間的諸条件があるのか、これをしっかり考え、調べてみる必要があります。「肌の色」の違いを根拠にして、差別や抑圧が起きるのは、どのような歴史的社会的条件があるときか。肌の色は、現在の人類が 20 万年ほど前にアフリカを出てから、世界各地に散らばり、農耕等で定借するなかで、その地の自然条件への適応過程で固定化したものです。その定着地に居続ける人は、肌の色も変わらない d 再生産されます。しかし、現代に近づくほど、流動化・移民が進み、定住地が変化しています。それにより、肌の色もずいぶん変化してきている、あるいは諸人種の混交・混合により、希薄化が進んでいます。つまり、肌の色は、現代に近づけば近づくほど、相対化されてきていることも事実です。その意味では、「肌の色」での差別の根拠は、希薄化の過程にあるとはいえるでしょう。

[5] そのどちらもあるでしょう。「時代」の違いは、決定的な条件、でしょう。それを吟味し確認し、検証することこそ、研究に値することでしょう。

[6] まさに、その通りですね。そのエリートたちが、大学は出たけれど、就職できない、先が見えない、絶望的な気分になる、といったとき、それらの原因を「分かり易く」説明してくれる人がいたらどうなるか？・・・「分かり易さ」単純さこそは実は、最も危険、というのがナチスの場合ではないでしょうか？どんな人々に、どのように分かり易かったか、どのように共感を獲得したか？　主義・主張・思想とその共鳴盤との関係！

[7] まさに、これこそ、研究してみる価値のある大問題の一つ。関心のある人は、研究を！
　ユダヤ民族の狭い宗教から、世界宗教へ、そのキーワードは、福音、愛の宗教・・・隣人を愛せ、右の頬を打たれれば、左のほほを差し出せ、福州ではなく愛を。
　ユダヤ教の側も、ナザレのイエスの「神性」を否定。（神の子などではなく、ユダヤ教の歴史に表れてきた偉大な予言者のなかの、単なる預言者の一人にしか過ぎない。

[8] ナチスと新中間層（職員、ホワイトカラー）、ナチスと旧中間層（手工業者、農民、小商人）との関係

10. 人種主義、それと結びついた反ユダヤ主義について・・・冷静に起こっていることを見る[9]と、明らかにおかしな主張だと感じる。『人間の種類』で描かれているものを見ると、事実と異なることは分かると思うし、ユダヤ人に対する「ユダヤ人高利貸し」というステレオタイプがまかり通るのも、ユダヤ人とドイツ人の関わりが希薄で、相手を知らないからこそ起こったことなのではと思った[10]。

11. 『ヴェニスの商人』[11]というミュージカルを観たとき、卑しく醜く、誠実な市民を苦しめる存在としてユダヤ人は描かれており、「ユダヤ人～」というステレオタイプが、数多く作品の中に見られた。作品に出てくる大衆の、ステレオタイプにとらわれた様子は、恐怖を抱かせもので、ステレオタイプを持つ人は、その相手に対してなんでもしてもいいという、際限のない暴力的な行為・発言が、その作品には見受けられた。これは今日授業の中で学んだ人種的反セム主義にも共通するものだと思うと同時に、大衆の怖さ、特に名のある人が言うことに同調する人間の浅はかさのようなものに似ていると思った。[12]

12. 前回講義に関する感想を読んで、合理化の究極はホロコーストである[13]という話に納得するものがあった。

13. テキスト 2 章の記述は、大変勉強になりました。これまでの私は、ヒトラーの思想があり、それを支持する人々がいたから、ユダヤ人迫害という悲劇が生まれたと考えていました。しかし、ヒトラーは、自分だけの考えでその行為に至ったというより、むしろ、ヒトラーが幼い頃には既に言

の深さは、ナチス勢力拡大から政権獲得に至るまでの研究で、指摘されてきた重要なこと。対比するのは、労働者。労働者は、左翼政党、ドイツ社会民主党（SPD）、ドイツ共産党（KPD）を支持する割合が高かった。

[9] 「冷静に見ること」ができなくなる体験、社会環境とは何か？これが問題ですね。

[10] 現在の中東・アラブ諸国・パレスチナにおける反ユダヤ主義は、「相手を知る」度合いが強いからではないか。シオニスト国家・ユダヤ人国家としてのイスラエルの行動が、反ユダヤ主義を強めることになってはいないか？「アメリカのウォール街を牛耳るユダヤ人」、「ウォール街・金融資本による支援を受けたイスラエル国家」といった認識経路で、アラブ人の反ユダヤ主義が形成されてはいないか？　ナチとの関連では、**ジェフリー・ハーフ『ナチのプロパガンダとアラブ世界』（岩波書店、2013）を参照。**

[11] まさに世界的大劇作家シェークスピアが、自分の劇で描いたユダヤ人像が、ユダヤ人一般にあてはめられ、ユダヤ人全体に対する偏見を助長しうち固める役割をしたことは、事実でしょう。そのような貪欲・強欲・血も涙もない人間像としての「ユダヤ人」イメージが、キリスト教会の中で聖職者・牧師によって語られたこと、なかでも、ルターの強烈な宗教革命と結びついた「ユダヤ人の嘘」の影響は、プロテスタント地域において大きいのではないか。

[12] ナチ党という政党の綱領（ナショナリズム論 HP、第 4 回参照）に、反ユダヤ主義の潮流を基盤にした「ユダヤ人排除」の**第 4 条**がある。その政治運動が、小さなものから巨大な運動に成長していったことを考えると、小さな始まりが、なぜ巨大化したのか、その巨大化の要因にはどのようなものがあるのかを、検証していく必要もあります。

[13] 「合理化（Rationalisierung）」は、極めて普遍的な概念であり、運動です。その合理化のおかげで、人類の生活水準が飛躍的に向上していることも、事実です。それでは、どのような合理化を、どのような主体・勢力が、どのような目的で行ってきたのか。

ホロコーストの担い手・主体・勢力・政党は、どのような目的・政策・方向性を実現するために『ホロコースト』に至ったのか。まさに、このことが決定的に重要ではないでしょうか。はっきりしていることは、ダウアー『容赦なき戦争』が明らかにしているように、戦争に勝つ、ということが至上目的になるとき、その目的・政策の実現のための『容赦なさ』－手段の合理化―は、究極まで進みます。ユダヤ人を大量殺害するとき、害虫駆除用に開発されたツィクロン B という化学製品を使うのは、製造するのに「安くて」、「簡単」、「効率的」と。

われ始めていた人種主義や反セム主義が、ヒトラーを誤った思想に導いたとも言えなくはないと思いました[14]。

14. 私は現在ゼミで、フランスの移民（教育に特化して）について研究していますが、19 世紀ごろにフランスでも言われていた優生学[15]の考えを知っておくべきなのかと思いました。まだ、20 世紀に施行された法律[16]に関してしか見れていなかったので、このような考えがフランスにもあったと知り、自分の研究にも活かせそうです。

15. ユダヤ人などの民族について学ぶにあたり、ただドイツやポーランドだけではなく、中東～ヨーロッパまでの WW２以前の歴史を、ただ世界史として学ぶのではなく、宗教学やもっと昔の戦争、さらには聖書なども読まねばならないと思った[17]。

16. ナチス（ナチ党）を市民や学生も支持したとあったが、ここを読んで、ヒトラー・ユーゲント[18]を思い出した。彼らはかっこよかったからあこがれたということを、以前 m にしたように記憶しているが、政治的社会的な意味でだけではなく、若者に対して、ファッションのような感覚で、ナチスの考え（？）を植え付け散った、というのもまた、支持された理由なのかとも考えた。

17. ユダヤ人には、キリスト教で重視される農業を行うことが許されず[19]、キリスト教徒にとって「卑しい職業」である商業の分野に進出するしかなかった。そうして経緯があるのに、経済が発展し金融業が大きな利益を上げるようになると、「成功したユダヤ人」のことを「ユダヤ人は金融を支

---

[14] 極めて重要な点に気付いたと思います。ヒトラー・ナチスの思想の「99 パ―セント」は、すでに彼が登場する以前の社会の中で言われていたこと、とも言われます。ラウル・ヒルバーグ『ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅』上・下、柏書房、参照。

しかし、ヒトラーの思想・行動は、幼少のころから青年期までに形成されていた思想・行動と同じでしょうか？　私は、質的な飛躍があった、と考えています。何がそうしたか？　それは、第一次世界大戦の経験であり、そのドイツ敗北の現実でした。この「敗北の克服」こそは、ヒトラーの思想構造の核心にあると考えています。拙稿「第三帝国における国家と経済－ヒトラーの思想構造にそくして－」遠藤輝明編『国家と経済』東京大学主 pp ン回、1982 年所収。

[15] 人種主義。

[16] 20 世紀といっても、二つの世界大戦までの半世紀と第二次世界大戦後の半世紀とでは、大きく変わったところがあります。すなわち、フランスは、20 世紀半ば（50 年代まで）は植民地所有国として、北アフリカ、アジア、その他の植民地を所有していたわけで、支配下にある植民地（アルジェリア、ベトナム、その他）において、支配を正当化する人種意識などが強固にあり、それがフランス国内の諸法律にも影響していたということを見る必要があるでしょう。

戦後も、アジア・アフリカの植民地解放の進展を踏まえ、フランスやヨーロッパの人々のアジアやアフリカの人々に対する見方・意識も大きく変化してきました。この、国家・社会・普通の人々の「脱植民化・非植民化」の進展度も、移民を見る目に大きく関係しているので、その点を検証していくことも必要でしょう。参考文献：ハルトムート・ケルブレ著永岑監訳『冷戦と福祉国家－ヨーロッパ 1945 - 89 年』（日本経済評論社、2014）

[17] 確かに、反ユダヤ主義を考えるとき、聖書の問題、イスラエル・パレスチナの古自時代の問題（南のエジプトの巨大な専制国家や北のアッシリアなどの強国の間に挟まれた弱小民族としてのユダヤの歴史とその中で培われたユダヤの宗教の特徴も考えてみる一つ用がありますね。一度にすべてはできないのですが、少なくとも、問題を考えるときの詩やとしては、広く長く持っておく必要がありますね。

[18] ヒトラー・ユーゲントについても、いろいろ翻訳書や新書、研究論文があります。調べてみる価値がありますね。

[19] 農業が、経済生活で圧倒的に重要だった中世社会の支配的な観念ですね。その古い農村社会的意識が、工業化社会・市場社会が発達成熟した段階でも、社会のいたるところに残っており、その差別意識が新たな意味づけを与えられる、ということですね。

配している」と糾弾するというのは、矛盾した論理だ。矛盾に、本人は気づかなかったのだろうか[20]と疑問がわいた。

[20] これも検討が必要ですね。しかし、金を借りて苦しんでいる人が多くなる経済情勢で、「なぜなんだ」と理由・原因がわからない人に、「ユダヤ人が悪いのだ」と言えば、何かわかったような気になる、ということはあるでしょう。理性的でなくなった人、危機に陥った人がすがる思いでいるとき、まさに「矛盾」には気づきにくいのではないでしょうか？